

ImPACT プログラム・マネージャー（PM）の新たな募集について

平成 27 年 4 月 10 日

内山田竹志
大西 隆
久間 和生
小谷 元子
中西 宏明
橋本 和仁
原山 優子
平野 俊夫

1. 趣 旨

（1）ImPACT は、ハイリスクであってもハイインパクトな非連続イノベーション創出を目指す制度として創設され、12名の多彩な PM（プログラム・マネージャー）による研究開発プログラムがスタートした。各 PM は、研究者としてではなく、研究開発全体のプロデューサーとして、研究機関への予算配分など、今までにない大きな権限の下、前例や慣習にとらわれず、そのマネジメント力を強力に発揮しつつ、革新的な研究開発に挑戦している。

（2）PM が進める研究開発プログラムの今後の展開次第では、加速・減速、また方向転換もあり得ることとしており、この意味で PM に対しては全体予算額を確約しているわけではない。期待された成果創出が困難な場合は、予算の減額等を行う一方、今後の展開によって飛躍的な成果創出が期待できる場合は、研究開発等の加速手当や、非連続イノベーションの成果を具体的に実証する手当等が必要となる。

このように、成果創出を見極めつつ、資金を追加的に重点配分する（または減額する）方法の導入によって、PM には強烈なインセンティブが働いている。この方法は、基金方式によって可能となったものであり、このため、ImPACT 基金において一定程度の資金枠を確保しておく必要がある。

（3）また、ImPACT 創設時には多くの応募が集まったが、制度創設から 1 年が経過し、ImPACT の概念や重要性の認識も相当程度広がりつつある中で、PM の更なる募集を求める声も多数寄せられている。

将来を見通しにくい科学技術イノベーションの大変革時代にあって、迅速な政策展開が重要であることは言うまでもないが、総合科学技術・イノベーション会議としては、ImPACT の制度創設、12 名の PM 決定に満足することなく、更に先々を見据え、的確な政策を切れ目なく展開し続けることが重要であると考えます。

特に第 5 期科学技術基本計画の方向性をめぐって様々な議論が行われて

いる現在、その計画決定を待つことなく、国内外の諸情勢の変化を踏まえながら将来の方向性を先取りし、ImPACTの趣旨に適合するものを、先行的・先導的に取り上げていく意味合いは大きい。

このため、①将来変化を大胆に先取りし、今後のイノベーションの潮流になると見込まれる観点、又は、②国家存立の基盤にかかわるような国家的重要課題に対応する観点から、果敢に挑戦する若干名の優れたPMを新たに採択し、我が国の抱える大きな社会的課題・経済的課題に対し、先手を打った政策対応を図るべきである。

2. PM 採択方法と予算規模

ア. 新たに公募し、特に優れたPMを採択（3～4名程度を上限）

イ. 研究開発プログラム構想の規模は、10～15億円程度

（平成30年度末までの1PM当たり総額）

ウ. 採択後、作り込みを経て、予算総額を調整

3. PMの募集・審査・採択

PMの採択に係る具体的方法は、「革新的研究開発推進プログラム運用基本指針」（平成26年2月14日総合科学技術会議）の規定に基づき行う。

ただし、1.（3）の状況と、これまでのPM公募・審査・採択の経験を踏まえ、以下に掲げる諸点に留意するものとする。

ア. 第5期科学技術基本計画の検討の方向性を踏まえ、PMの構想は、次の①または②に掲げるものを重視する。

①将来変化を大胆に先取りし、今後のイノベーションの潮流になると見込まれるもの

②国家存立の基盤にかかわるような国家的重要課題に対応するもの

イ. PM応募者は、昨今の国内外の諸情勢・諸施策に関する知見を有し、例えば、既存規制・制度への挑戦、地域・グローバルの視点、若手・女性活用、ベンチャー・中小企業の活用等についても適切に配慮した構想を練ることができる人材が望ましい。

ウ. PMの審査は、書面審査の後に行う面接審査を重視し、ImPACTの趣旨に適した構想か、PMとしての資質は優れているか、をよりの確に審査する。